# 馬耳東風

やっと長い冬が終わり，半月遅れの桜が満開となった(4月15日執筆)．満を持して一斉に咲き始めた今年の桜は際だって美しい．毎年，春を唱い街々を染める桜の花，人々の心に華やぎと希望を抱かせ，門出には相応しい．半世紀経っても学舎と桜の記憶が新しい．また，日常生活の中には花，色，魚，食物，料理など様々な場面に桜に関する単語，言葉が実に多い．そしてこれら事物を形容する言葉としてはいずれも「美」を連想させるものである．その反面，様々な人との出会い，別離など，とりわけ人生の悲哀もまた桜と共に甦る．精々数日間を咲き誇る桜に対してこんな感傷的な気持ちを結びつけるのは日本人の感性の表れか．ただ，今の世相には花吹雪に酔う程の華やかさはない．巷にあふれる様々な経済事件の当事者にはモラルの片鱗も感じられず，虎視眈々と獲物を狙っている獣のような殺伐さを感じ，義憤を禁じ得ないことが多すぎる．

「さくら」には「ただで見る」という意味がある，それが転じて，「露天商などが業者と通謀し，客を装って商品などをひやかし，買う振りをして客の購買心をそそる者」という意味ができたという．如何にも「お買い得品」と思わせる言葉の応酬は聞いていると面白い．そんな露天商の「さくら」には高々小遣い銭で買える程度，「出し物」的な面があり，時が経てば自分の未熟さに苦笑することで事は終わる．今，AIJ投資顧問の年金資産の消失事件で詐欺罪を適用するために関係者が国会で証人喚問を受けている．社長の答弁にはコメントするほどの価値もないが，事件は詐欺事件以外なにものでもない．それに荷担していた旧社会保険庁のOBの役割は正に「さくら」そのものであろう．今の複雑な世の中，特に金融市場では高度な知識と経験を持った専門家でなければ資金運用益が上げられないという．そんな世界で，OBの能力は知らないがいわゆる「権威」の口添え効果が被害の拡大を招いたのだろう．突然降ってわいたような詐欺事件に知人の被害者の怒りは爆発寸前である．実体経済を反映しない株式市場も裏を返せばコンピュータを介した瞬時の「さくら」ゲームで動いているように思えてならない．

昨年は世相を最も的確に表す漢字として「絆」という字が選ばれた．東日本大震災を経験し，お互いに相手の気持ちに寄り添い，助け合うことの大切さを多くの人々が感じたが故に選ばれたという．「絆」は元々足かせとか自由を束縛するという意味である．牛馬などに縄をつけて引く，つまり「縄」で「引っ張る」，相手の自由を拘束するという意味を含む．「絆」は「人と人との結びつき」という意味で選出されたと思うが，これとて単なる隣人との繋がりを大切にするという以上に「断ちがたい恩愛」によって結ばれているというもっと強い関係を現す言葉という．これには互いに自己の利益を犠牲にしても他人との関係を強く築き，相手のためになるという意味を含んでいると思うが，自由こそ最も大切な行動規範と考えている人種で溢れ，「身勝手主義」が蔓延している現在，真に「絆」が普遍的な価値観として社会に広く浸透する世の中が来るであろうか．自分一人でもそんな社会の実現を期待したい．　(青)